

活動報告書 2025-2026



苦しく辛い経験をした子どもは、誰よりもつよくやさしくなれる。
被災地の子どもたちの成長は、私たちの希望です。

公益社団法人ハタチ基金

〒164-0001

東京都中野区中野5丁目15番2号

TEL: 03-3228-5033

<https://www.hatachikikin.com>



2026年9月発行

0歳から20歳までの各年代の子どもたちへの支援事業が助成の対象です。



ハタチ基金

ハタチ基金は、
東日本大震災発生時に0歳だった子どもが、
無事にハタチを迎えるその日まで、
心のケアや学び・自立の機会を継続的に提供します。

ハタチ基金は「震災が理由の『できない』をなくし、どこに生まれても、どんな経験をして『人生は自分で創っていける』と子どもたちが思えるような機会を提供したい」という想いで活動しています。本報告書では、2025年度に実施した活動やその成果を、写真やエピソードを交えながらご紹介しています。日頃よりご支援・ご声援をいただいている皆さまへの感謝の気持ちを込めて、この一年の取り組みをご報告いたします。



代表理事よりご挨拶

この15年で東北の街並みの再建は大きく進んだ一方で、人口減少や少子高齢化といった震災以前からの課題は深刻さを増し、震災の影響と複雑に絡み合っています。子どもの貧困や不登校、孤立などが顕在化する中、支援制度や相談先を知らず、必要なサポートから取り残されている方々がいるのが実情です。同時に、震災を知らない世代が増える今、記憶や教訓を次世代へ継承し、防災意識や地域への愛着を育むことも重要な課題です。だからこそ、地域で活動する団体が住民一人ひとりに寄り添い、特性に応じた支援を継続していくことが欠かせません。

ハタチ基金は、子どもや若者の成長と地域の未来を築くための中長期的な伴走支援を、2031年まで一層力強く推し進めてまいります。皆さまからの変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

公益社団法人ハタチ基金
代表理事
今村 久美



現場からの声

対等な場所から、新しい一歩へ

特定非営利活動法人こおりやま子ども若者ネットワーク

私たちが運営する居場所「ゆ〜くる」は、子ども・若者がゲームや読書、おしゃべりなど、それぞれが思い思いに安心して過ごせる場所です。その中で、人との出会いやさまざまな経験が少しずつ重なり、社会とのつながりが生まれていきます。今回は18歳のAさんの声を紹介します。

Aさんは普段、卓球をしたり、楽器を演奏したりするなど、様々なことに取り組む一方で、ゲームやスマートフォンに触れながら一人で過ごす時間も多々あります。ある時、Aさんは自身のことを「これをしたいとか、あれがしたいとか。何が好きとか、何が得意とか。やりたいことがあるとか、自分の気持ちに素直になれるとか。自分には、そういう人間らしいところがない」と話していました。



そんな中、町内会の山車を引くイベントのお手伝いに声をかけたところ、二つ返事で「やる」と答え、交通整理の役割を担いながら3日間走り続けました。活動後「お疲れさま。また頼むよ」と地域の方々から声をかけられると、「うす!」と力強く応える姿がありました。

その出会いをきっかけに、駅前のお祭りの清掃ボランティアを自分から始め、その一生懸命な様子を見ていた大人から声をかけられ、仕事へとつながっています。「行動したからその結果につながったと思う。

今までは年齢が若いからといって『危ない・やらせない』と、社会的に制限されてきた。『ゆ〜くる』は年が離れているとか近いとか関係なく居られる関係性で、その自由な関わりがあるからこそ、チャンスが生まれたと思う」と話してくれました。

今でも「自分には何もない」と呟く一方で、「まあ、でも今で結構満足しているよ」と語るAさん。「ゆ〜くる」での時間や人との出会いの中で生まれた経験が、これからのAさんにとって、少しずつ自分の歩みを彩る種になっているように感じます。

「ゆ〜くる」では、これからも利用者の声をしっかりと聴き、子ども・若者と大人が対等な立場で活動し、一人ひとりの生き方や選択が等しく尊ばれる地域を目指していきます。

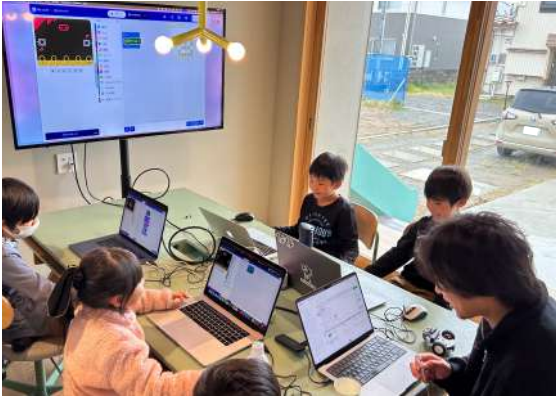


2025年度の支援実績

実施期間 2025.4/1~2026.3/31

一般社団法人イトナブ石巻

地域 宮城県石巻市 対象 小中高生



子どもたちが自ら成長する力を育むための KIZUKIT BASE（キズキットベース）

延べ892名の子どもたちにデジタル技術に触れる
きっかけを提供

助成額 4,000,000円

私たちの活動拠点「KIZUKIT BASE」では、子どもの居場所づくりと学び
きっかけづくりを重視しています。2025年度は延べ892名にデジタル技術
に触れるきっかけを提供しました。子どもたちはプログラミングに親しみ
ながら創意工夫や論理的思考力を育み、教え合いを通じて他者との関係性
を深めています。支援にとどまらず、micro:bitを使用した勉強会や、レーザー
カッターを使用したオリジナルコースター制作などのものづくりイベントを
行うことで「きっかけ」を提供し、自ら未来を切り拓く力を育んでいます。

困窮家庭の中高生に向けた学習支援と 次世代育成事業

中高生向け無料学習会を実施
(年間190回、延べ3,125名が参加)

助成額 9,000,000円

経済的困難を抱える家庭の多い仙台市にて、中高生向けの無料学習会を
実施しました。学習支援以外にも、キャリア教育、体験活動、季節行事など
を行い、様々な人と交流する機会を提供しています。また、進路相談や奨学
金などの情報提供にも力を入れています。2025年度は様々な体験活動や
デジタル技術支援など、多方面から学びを支援しました。通信制高校生
の大学進学や高校の編入学希望者への学習支援、情報提供にも丁寧に取り
組みました。

認定NPO法人キッズドア

地域 宮城県仙台市 対象 中学2年生～高校3年生



NPO法人こおりやま子ども若者ネットワーク

地域 福島県郡山市 対象 中高生～若者



こおりやまユースコミュニティカレッジ

多様な子どもの願いを支える「場」と「学び」の環境づくり
(延べ3,491名が参加)

助成額 9,000,000円

子ども・若者が地域の中で多様な価値観と出会い、生き方の選択肢を広げる
「学び合いの拠点」を運営しました。居場所「ゆ〜くる」の運営、学校や家庭
で悩みを抱える子どもへの個別支援、支え手を育てる研修にも力を注ぎま
した。こうした活動が実を結び、新たに高校内での居場所活動が始まったり、
町内会活動や地域のお祭りに子ども・若者が参加したりと、世代を超えた
つながりも生まれています。彼らの居場所と自分らしく学ぶ機会が、地域
の中で着実に増えています。

認定NPO 法人底上げ

地域 福島県双葉郡楡葉町

対象 未就学児～中学生



創作活動を通じた居場所づくり事業

ちいさなやってみたい! / を実験できるあそびば
(年間延べ900名程度が利用)

助成額 4,460,000円

子どもたちが集う遊び場兼居場所「ならはこどものあそびば」を運営しています。自分の『きもち』を大切にすることというテーマに、創作活動や遊びによる表現を見守っています。日々の活動では、子どもたち自身が考えた、多種多様で奇想天外な「あそび」が生まれています。「これをやってみたい!」「あれはどうなる?」という遊びの中で生まれた問いや好奇心を大切に受け止め、ときには背中を押すこともあります。子どもたちと共に拠点も成長を続けています。

スタディクーポン提供事業

223名の子どもたちにスタディクーポンを提供

助成額 10,000,000円

経済的困難を抱える家庭の子ども223名に対して、学校外教育機関(塾、習い事、教育支援NPO等)で利用できるスタディクーポンを提供しました。子どもからは「先生が熱心に教えてくれて、もっと学びたい気持ちが強くなった」「学校に通えなくなったけど、クーポンで塾に通い続けられた」「親には言えないことを大学生ボランティアに相談でき、前向きな気持ちになれた」といった声も寄せられました。

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

地域 岩手県、宮城県、福島県全域

対象 小中高生



© 平井慶祐

NPO 法人TEDIC

地域 宮城県石巻市

対象 小中高生



子ども・若者の居場所から始まる 地域のつながりプロジェクト

子どもと地域の大人をつなぐ235回の拠点開放

助成額 9,037,959円

子どもと地域の大人が自然に交わることのできる「誰でも来られる場」を意識して2拠点を運営しました。蛇田拠点では地域に根差したつながりの中で子どもと大人が集い、中里拠点では関係機関や団体と連携し、石巻全体の子どもたちが安心して過ごせる場を目指しました。居場所への参加や研修を通して、地域の大人が子どもを見守る存在となり、少しずつ応援の輪が広がっています。

NPO 法人トイボックス

地域 福島県南相馬市 対象 小学生



子どもや子育て世帯への支援を
行政・地域と連携して実践するまちづくり

子どもの居場所3拠点の運営(各拠点年間250日以上・
登録者計85名)及びイベントの開催

助成額 8,637,000円

3つの拠点を運営し、子どもの放課後の居場所や不登校児童・生徒を対象とした居場所づくりに取り組みました。また、毎年行っている「みなみそうまキッズフェスタ」も11月に開催しました。イベントでは子どもたちが自分の「できた!」を見つけられるプログラムが盛りだくさんで、夢中になって取り組む姿があちこちで見られました。温かい雰囲気の中で、子どもも保護者もワクワク過ごせた1日となりました。

にじいろみんなの居場所プロジェクト

アートと農園を活かした居場所づくり
(192回開催、延べ4,468名が参加)

助成額 4,500,000円

子どもたちが安心して過ごせる居場所を運営しました。農園を活用した野菜作り、身体を使った外遊びや室内でのものづくり、食事づくりなどを通して、一人ひとりが自分の思いや関心を表現できる時間を大切にしました。活動の中では、初めは緊張していた子が少しずつ自分から遊びに参加したり、年下の子を気かけたりする姿も見られました。子どもたちは自分らしく過ごしながら、人との関わりを広げ、成長しています。

NPO 法人にじいろクレヨン

地域 宮城県石巻市 対象 未就学児～高校生



NPO 法人「人間の安全保障」フォーラム

地域 宮城県気仙沼市 対象 小学4年生～中学3年生



子どもの居場所 みらいと

安心できる居場所と体験機会の提供(週3回の開所、月2回の
体験プログラム、月1回以上の休日イベント)

助成額 4,156,248円

私たちは子どもたちが安心して過ごせる居場所「みらいと」を運営しています。「みらいと」では、子どもを一方的に「支援される存在」として位置づけるのではなく、一人ひとりの主体性や意思決定を尊重することを重視し、子どもの健やかな成長を支えています。また、お菓子づくりやデジタル技術に触れる活動、スポーツなどの多様な体験プログラムを提供し、家庭環境に左右されない体験機会の確保に取り組んでいます。

一般社団法人まちとこ

地域 宮城県牡鹿郡女川町

対象 未就学児～若者



コラボ・スクール 女川向学館

延べ 10,000 名以上に学びを提供

助成額 9,000,000円

私たちの活動拠点の女川向学館では、震災の影響を受けた子どもたちが安心して過ごせる居場所と学びの機会を提供しています。『子ども・若者の新しいスタートに伴走する生態系を創出する』をミッションに掲げ、放課後の学習支援やキャリア学習を実施しました。大学生インターン等との「ナナメの関係」による心のケアに加え、2025年度は新たに保育所での学習支援や小学生を対象としたサマープログラムも実施し、就学前から高校生まで一貫した支援を展開しました。

高校生の多様な挑戦の「入り口」を創出する活動

高校生延べ929名に地域の中で多様な挑戦ができる機会の提供

助成額 7,400,000円

高校生が地域と関わりながら「やってみたい」を見つけ、実現する機会を創出しました。地域ボランティア「まきボラ」には延べ138名の高校生が参加しました。実践型インターンシップや放課後マイブロボサートは、高校生が企業課題の解決に向けた提案や実践に取り組むとともに、自らプロジェクトを企画・実行する経験を通じて、主体性やキャリア形成への意識を高める機会になっています。さらに高校内の授業では、地域の事業所が掲載された探究図鑑の活用により、誰もが主体的に地域へ関わるきっかけを作りました。

一般財団法人まちと人と

地域 宮城県石巻市

対象 高校生



NPO法人まなびのたねネットワーク

地域 宮城県石巻市

対象 女子中高生～10代女性



石巻地域の女子中高生を対象としたフリースクール事業

週1回の伴走支援で一人ひとりの心に寄り添う

助成額 2,000,000円

私たちが運営する高校生や若者の居場所「しゅろハウス」の日中を活用し、「フリースクールばるむ」をオープンしました。アットホームな雰囲気を中心に、送迎や外出が困難な家庭へ訪問支援も行うなど、一人ひとりに寄り添った支援を行いました。学び支援のほか、昼食作りや様々な体験活動や出会いを通じ、将来の自立に向けた生活スキルや社会との接続サポートにも力を入れています。不登校や対人不安を抱える子どもの歩幅に合わせ、学校復帰のみに関わらず、自分らしく生きていくための心の安全基地と意欲を育む伴走を心がけています。

一般社団法人まるオフィス

地域 宮城県気仙沼市 対象 小学生



子どもの好奇心を育む放課後プログラム 放課後たんけん

子どもたちが身体を動かし、地域に飛び出し、
放課後を思いっきり楽しむ！

(3学区、計46回開催、延べ1,478名が参加)

助成額 6,945,360円

基礎体力の向上やコミュニケーション能力を育む「運動あそび」と、地域に飛び出して五感を使う「地域たんけん」などのプログラムを行い『放課後たんけん』を運営しました。魚をさばく体験や、収穫した野菜を調理して夕食を共にするなど、“食”を軸としたプログラムにも挑戦しました。また、地域団体と協働し、新たに2学区での活動を立ち上げ、地域の特色を活かした展開を進めています。子どもが地域で思いきり遊ぶ環境をつくり、探究心の基礎となる好奇心の「種」を育てています。

子どもの今と未来を育む、地域全体での 居場所と体験機会づくり

延べ1,605名の子どもたちに居場所を提供
延べ280名の小学生と高校生に地域での挑戦の機会を創出

助成額 9,000,000円

子どもたちが自由に過ごすことができるサードプレイス「みやっこハウス」を運営しました。クマの影響などで地域での遊び場が減少する中、延べ1,605名の子どもたちが安心安全な環境で楽しく過ごしました。また、小学生が自然遊びや調理体験、ものづくり体験など、地域で様々な体験を行う「みやっこまるまるクラブ」の企画運営や、高校生のボランティア活動のコーディネートを通して、延べ280名の子どもたちが挑戦心や好奇心、地域への愛着を育みました。

NPO法人みやっこベース

地域 岩手県宮古市 対象 小中高生



一般社団法人未来の準備室

地域 福島県白河市 対象 高校生



地域活動マッチングプラットフォーム「うずうず」の 運営 ～高校生による利他と利己の循環の実現～

延べ124名の高校生がボランティアに参加し、
社会へのアクションを起こす！

助成額 2,500,000円

ボランティアマッチングプラットフォーム「うずうず」を通して、31種類・延べ124名が参加するボランティア活動を支援しました。単発のボランティアに加え、地域団体と共に中長期で取り組む活動や、専門性を持つ地域内外のプロボノとの協働を通して、高校生が地域の本質的な課題解決に参画する機会も創出しました。これらの活動と日常的な伴走支援を通して、高校生一人ひとりの学びと地域への貢献がつながり合う伴走モデルの構築に取り組みしました。

会計報告

〔公益社団法人ハタチ基金 決算報告〕

正味財産増減計算書 2025年4月1日～2026年3月31日

(単位：円)

科 目			2025年度実績	
一般正味財産増減の部	経常収益	受取寄付金	51,671,000	
		受取寄付金振替額	89,858,521	
		雑収益	48,318	
			経常収益計 141,577,839	
	経常費用	1. 事業費	人件費	0
			助成金	99,636,567
			事務局運営費	7,870,034
			その他事業費	21,760,106
		2. 管理費	人件費	1,700,000
			事務局運営費	2,623,344
			その他事業費	7,987,788
			経常費用計 141,577,839	
	当期一般正味財産増減額		0	
	一般正味財産期首残高		1,096,100	
	一般正味財産期末残高		1,096,100	
指定正味財産増減の部	受取寄付金		315,614,654	
	一般正味財産への振替額		▲ 89,858,521	
	当期指定正味財産増減額		228,936,061	
	指定正味財産期首残高		414,359,805	
	指定正味財産期末残高		643,295,866	
正味財産期末残高			644,391,966	

- 残高は2026年度に行う事業および、基金の継続的な運営管理のために使用させていただきます。
- 呼びかけ人の皆様からのご寄付については一般寄付とし、東北の子どもたちを支援する団体の活動および基金の運営管理など、ハタチ基金の活動全般を長期的に継続していくために使用させていただきます。●ご都合のよい時にいただく都度のご寄付については指定寄付金とし、東北の子どもたちを支援する活動のために活用させていただきます。

2025年度 公益社団法人ハタチ基金助成事業について

助成件数：15件

助成金額：99,636,567円

ご寄付について

いつもあたたかいご支援をくださりありがとうございます。
ハタチ基金では個人寄付・法人寄付でのご支援を承っております。
今後とも応援のほどよろしくお願いいたします。

銀行振込

〔三菱UFJ銀行〕
高円寺支店(店番号:155)
口座名義:公益社団法人ハタチ基金
口座番号:0144274(普通)



個人の寄付

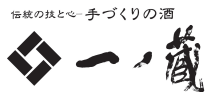


法人の寄付

※大変恐れますが、振込手数料はご負担をお願いしております。

ご支援いただいた皆さま

ハタチ基金では、2025年度、多くの企業・団体さまからのご寄付をいただきました。継続的なご支援、寄付付きキャンペーンの実施や情報発信へのご協力など、それぞれの形で子どもたちを支える活動に参画いただいております。



株式会社一ノ蔵

S&Dインポートカーズ

S&Dインポートカーズ株式会社



株式会社大垣共立銀行



KDDI 株式会社



SHAKE SHACK

全日本ロータス同友会山形県支部
ロータス山形株式会社

大王製紙株式会社



大正製薬株式会社

こころとからだに、
おいしいものを。



ダイドーグループホールディングス株式会社



株式会社東京書芸館



トヨタS&D西東京株式会社



橋本産業株式会社



株式会社ホッタ



Yahoo! ネット募金

アマタケ共栄会 / 一志眼科 / 維摩池周回チャリティーマラソン / ARS MUSICA / 一般財団法人カクテル文化振興会 / 共同カイテック株式会社 / 株式会社金澤留造酒店 / 株式会社きんでん東北支社 / 株式会社クオカード / 株式会社グッドスポーツ / J-POWERグループユニオン / 株式会社CORE技術研究所 / 株式会社ジノ・ソニック / 株式会社シーブロック / 株式会社シンセ / 株式会社生活総合サービス / 株式会社ダブルカルチャーパートナーズ / 特定非営利活動法人Dance Association Seeds / チャリティALOHA市場 / つながる箱 / T-ハウジング / 真宗大谷派 徳蓮寺 / 2025年7月チューリッヒチャリティーコンサート / 日油株式会社 / 一般社団法人日本サロネーゼ協会 / ハタチ基金チャリティーコンサート2025 / BSN愛の募金 / 三菱UFJニコス株式会社 / LIFEWAVEブランドパートナー有志一同 / 株式会社ライフコミュニケーション / リンクアンドサポート株式会社 ※ 敬称略・五十音順

※ その他、たくさんの企業・団体さまからご支援をいただきました。

企業・団体さまからのメッセージ

尾張旭ランニングクラブは2011年に「第1回維摩池周回チャリティーマラソン」を開催し、第2回よりハタチ基金の理念に賛同し、今年の第16回大会まで寄付を続けております。私達ランナーは全国のマラソン大会で、子どものボランティアさんから、温かい給水や声援、純粋な利他の心による応援を受け、力をもらってまいりました。尾張旭ランニングクラブ主催の維摩池チャリティーマラソンでは、「今度は自分たちが恩送りをする番だ」という気持ちを忘れず、東日本大震災当時0歳だった子どもたちが「ハタチ」を迎えるその日まで、この大会を続けて行きたいと思えます。未来ある子どもたちの為に活動ができることがクラブの糧となっており、感謝しております。

維摩池周回チャリティーマラソン



個人寄付者さまからのメッセージ

- ・ このようなご活動に心から感謝いたします。東北出身ですので、いつも心を寄せております。
- ・ 教育は力になります。学びたい方が学べますように。事務局の皆様、関係者の皆様により難く感謝しています！
- ・ 苦境に遭った子どもたちが生きてよかった、頑張ってた良かったと思える未来でありますように、陰ながらいつも応援しております。お世話いただいている方々のお陰様で、子どもたちも励まされていることと思います。

15年目のハタチ基金

寄付者の皆さまからのメッセージ

東日本大震災から15年の節目に、継続してご支援くださっている皆さまからのメッセージを募集いたしました。ホームページで公開させていただきましたが、本誌でも一部共有させていただきます。改めて、この15年間、寄付・連携・支援というかたちで、東北の子どもたちの未来を共に支えてくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。

誰にでもつらいことはあります。自分で解決ができないことは、誰かに頼ってもかまわないと思っています。
ちゃんと見ている人はいます。周りを見渡すことができる大人になってください。これが支援してきたお返しと考えてください。
皆さんの奮闘を祈っています。

東京都 70代

震災直後に東北の被災地に行ったときから、この地域で暮らす子どもたちが、どうかこの先幸せになりますようにと願っております。
子どもたちの成長をこれからも応援しています。

神奈川県 40代

皆様は未来への希望です。微力ながらサポートできた事を光栄に思います。震災で犠牲になられた方々の分まで未来に翔けること、心よりお祈り申し上げます。

東京都 50代

能登半島地震を経験した石川の地より、心からのエールを送ります。私自身、80代の親を支えながら日々を過ごしておりますが、世代を超えて手を取り合い、協力し合っていくことの大切さを実感しています。これからお互いに頑張りましょう。
またいつか、笑顔で再会できることを願っています。

富山県 男性 40代

東北の若い世代の皆様が、未来を向いて歩いていけるお手伝いが少しでもできますと幸いです。運営の皆様のご尽力も、15年のご継続も、本当に頭が下がる思いです。日本は皆でひとつ。皆と一緒に歩んでいけたら幸いです。引き続き、よろしくお願いします！

東京都 30代

その他、たくさんの寄付者さまよりメッセージをいただきました。
「15年目のハタチ基金へ」と題した、ハタチ基金ホームページにてご覧いただけます。



東北被災地の子どもたちが拠り所を失わないように 子ども支援団体の未来をみんなで考えた「ハタチ基金合宿」

ハタチ基金の助成期間終了後も、東北の子どもたちへの支援を継続していくためには、助成先団体の自立が不可欠です。当基金では、従来の資金支援にとどまらず、各団体が持続的に活動できる「組織基盤づくりへの伴走」が必要と考えています。その第一弾として、2026年2月に合宿形式の勉強会を開催いたしました。

参加者は「ハタチ基金の活動が終了する2031年までに実現したい理想の団体・地域の姿」をテーマに、各団体が抱える現状の課題や目指すビジョンを共有し、その実現に向けた具体的なアクションプランについて活発な議論を交わしました。

今回の合宿は、同じ東北の地で活動する団体同士が、互いの経験や悩みを分かち合い、学び合うことで、新たな気づきや横のつながりが生まれる貴重な機会となりました。ここで得られた知見とネットワークが各地域での実践へと還元され、子どもたちへの支援がより持続可能なものとなることを期待しています。



ハタチ基金合宿の様子は
ハタチ基金のメルマガページ
でもご覧いただけます。



ハタチ基金

●各種変更をご希望の場合

寄付金額、クレジットカード、領収書の宛名変更等のお問い合わせは
右記 QR コードまたはメール・電話にてご連絡ください。

●遺産・相続財産の寄付をご検討されている場合

まずはメールにてご相談ください。

メールアドレス
info@hatachikikin.com

電話番号
03-3228-5033

お問い合わせ



表紙撮影：森脇麻帆